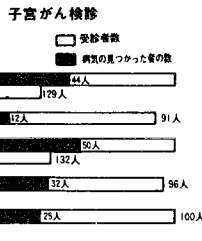
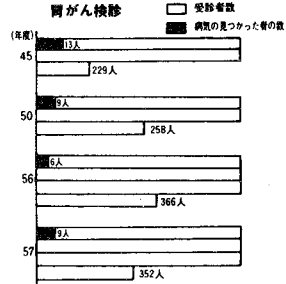


病気になるのは、だれでもイヤなものです。なぜなら、わたしたちにゆるぎをあたっている自由を制限してしまいますし、本人はもとより、まわりの人にも、とくに家族には心身両面にわたる苦痛を与えてしまいます。

そこで改めて、あなたの健康がもつ意義を考えてみる必要があるでしょう。

あなたの健康は、あなた自身のものであると同時に、家族みんなの、そしてひいては社会全体のものであるのですから。

定期受診を



四、がん検診

がんといつても早期の治療さえできれば、なにも怖ろしいことはない。ところが、がんがある程度進行して、治療が難しくなってきたら、自覚症状があらわれてきません。ですから、がんに対しては検診による早期発見がもっとも重要になってくるのです。

村では下表のように毎年多くの人々が検診を受けるが、がんを含めた種々の病気が見つかっています。しかし、村の検診で発見される場合は、手術も可能であり、生存率も、医療機関で見つかった者に比べ良い結果が出ています。というのも早期発見のためと考えられます。

国民年金コーナー

保険料が四月から五、八三〇円に

加入者みなさんのご理解とご協力をお願い申し上げます

国民年金の加入者のみなさん、この四月から定期保険料が、いままでの一カ月五、二二〇円から五、八三〇円に改められます。「また上がるのか」と思われるでしょうが、これは将来の年金額の充実や受給者数の増加による給付費の増大などを考慮したうえで必要な措置なのです。

現在、制度の財政は、受給者のみなさんがこれまで納めてきた保険料と、現在働いている世代のみなさんが負担する保険料とによってまかなわれていますが、ご承知のようにわが国は、年を追うごとに老人が増え、傾向にあります。

これは、加入者に対しては給付が増え、それに伴って給付費もどんどん増えていくことを意味しています。このため、これからは給付費の確保と、とりわけ保険料の引き上げが不可欠な要件となってきます。

しかし、給付費が不足からといって受給者本位で保険料額を引き上げただけでは、加入者のみなさんにいままでの負担増

を強いることになり、ひいては「年金制度自体の崩壊」をも招くことにもなりかねません。

そこで、国では昭和五十五年に行われた財政再計算により、昭和五十六年度の保険料額を四、五〇〇円とし、以後毎年、急激な負担を避けた段階的な引き上げにより円滑な年金財政を図ろうとしています。(別表参照)

加入者みなさんのご理解とご協力による保険料負担で、給付と負担とのバランスが保たれば、国民年金制度の維持発展はもとより、現在マスコミをにぎわしている「年金財政の破綻」も解消されるものです。

現在の受給者はもちろんのことですが、将来の受給者である私たちや後世の人たちが十分な給付が受けられるような財政基盤の確立のためにも、保険料額の引き上げに対し、加入者みなさんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

保険料額の改正

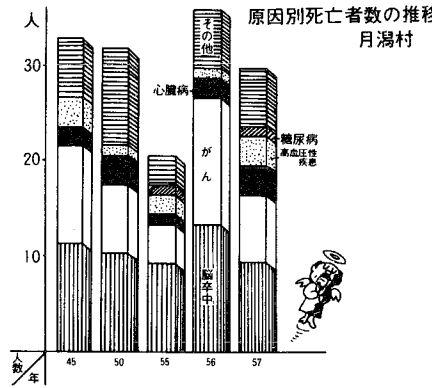
	1ヶ月分保険料額		1期(3ヶ月)分額	
	定額分	付加分	定額分	付加分
現行	5,220	400	15,660	1,200
改正(58.4.1起)	5,830	400	17,490	1,200

納付書発行日及び納期限

	第1期	第2期	第3期	第4期
納期	4月~6月分	7月~9月分	10月~12月分	1月~3月分
納付書発行日	4月15日	7月15日	10月15日	1月14日
納期限	6月25日	9月26日	12月26日	2月25日

お金にかえられない健康!

昭和57年度 村民の健康状況は……



明るい笑顔で、「おはよう」といえる朝は、生きていく喜びを感じるときではないでしょうか。そこには「健康」である自信とほこりがあります。

ところで、あなたは「健康」というものを考えてみたことがありますか。そんなことを考えないことが健康を証したなどという気にならないうか？ わたしたちの生活を見まわすと不健康のタネは数えきれないほどあります。

左のグラフは、年ごとに見た月湯村の死亡者数とそれを原因別にみたものです。どの年齢が成人病でしめられていきます。年齢的には脳卒中は高年齢化してきていますが、がんは50才・60才代に多く今後より一層問題として、とりあげられるでしょう。

その結果を見ると相変わらず高血圧者が多く、40才未満の受診者中約30%が高血圧と判定されています。又65才未満の働き盛りの人で見ると、その26%が高血圧であり、その他心臓病・動脈硬化・糖尿病・肥満と、いくつかの病気をあわせて持っている人が多くなっています。

又、要医療と指示されても、自覚症がない、ということ医療につかないままに高い傾向です。

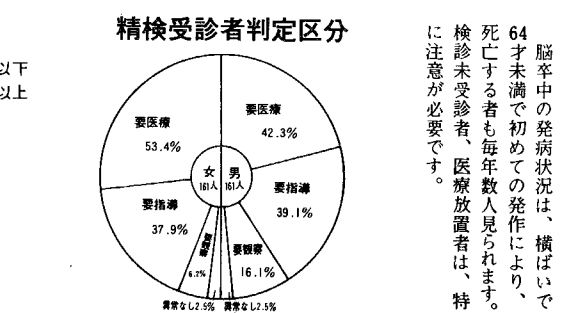
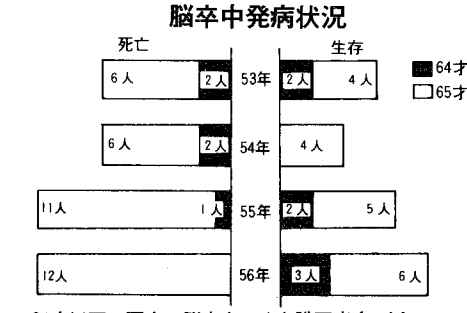
一、結核検診

年々結核は減少してきていますが昨年より新しく一人の患者が出ています。巻保健所管内の状況を見ても最近、老人の再発するケースが目立ち、又悪化してから見つけることが多くなっています。一方、この検診から結核以外にも種々の胸部疾患が見つけれられ、ここ三年間に、肺がんが四人見つかりました。

二、循環器検診

検診の受診率は、年々増加し健康づくりが国でさげばれて五年になり、村民の中に「自分の健康は自分で守ろう」という意識が出てきているように思われます。

年度	受診率
45	25.5%
50	32.8%
55	63.3%
56	63.9%
57	75.2%



64才以下の死亡は脳出血・くも膜下出血が多い

貧血は、いろいろな病気の一種状としてあらわれることもあり、油断はできません。その他貧血の原因としては、蛋白質不足、朝食の欠食等食生活・過重労働・睡眠不足・度重なる妊娠等も考えられます。貧血を治してゆくには、個人の注意のみならず、生活時間の改善等、家族の協力が必要となってきます。

